

きっと家族の
命をつなぐ。
きっとその時
役に立つ。

No.
05

豪雨による水害は備えを効かせよう！

「災害への備え」というとまず地震への備えを思い浮かべる方が多いのではないのでしょうか。しかし自然の脅威は地震だけではなくありません。夏になると毎年のように「線状降水帯」や「局地的大雨」という言葉がニュースで聞かれるように、豪雨による水害は夏から秋にかけて特に警戒すべき災害です。

豪雨は全国で発生しており、近年は岡山県で80人を超える死者を出した平成30年7月豪雨や、長野県の千曲川が氾濫した令和元年東日本台風、熊本県では球磨川が氾濫した令和2年7月豪雨などが甚大な被害

をもたらしました。中でも、岡山県倉敷市真備町では豪雨で流されたポンプが水が引いた後に住宅の屋根の上で発見されるなど、目を疑う報道の映像が多く、記憶に新しい方も多いでしょう。

豪雨はあなたの住む地域にもいつやってくるか分かりません。加えて、線状降水帯や台風は極めて短時間で想像を超える雨量をもたらすため「浸水するかもしれな

い」と思ってから準備していても間に合いません。しかし地震と異なり、豪雨は予報で知ることができるため、家庭で対策や準備がしやすい災害ともいえます。

まずは自宅付近のハザードマップや過去の水害記録を参照し、家族で避難場所を確認したり、避難経路が冠水する恐れがある場合は別のルートを検討したりしておきましょう。



	人的被害		住家被害	
	死者(人)	行方不明者(人)	全壊(棟)	半壊(棟)
平成30年7月豪雨での岡山県の被害	86	3	4,830	3,365
令和元年東日本台風での長野県の被害	24	0	920	2,496
令和2年7月豪雨での熊本県の被害	67	2	1,493	3,117

岡山県「平成30年7月豪雨災害記録誌」(令和2年3月)、長野県「令和元年東日本台風(台風第19号)人的被害・住家被害の状況」(令和6年2月28日現在)、熊本県危機管理防災課「令和2年7月豪雨に関する被害状況について」(令和4年4月1日公表)をもとに作成

ママのための 防災ヒント

冠水した道路で、子どもを
連れて避難するときは…



冠水した道路を車で移動すると、水圧の影響でドアが開かなくなってしまう可能性があることに加え、故障した車内に閉じ込められる恐れもあり、非常に危険です。避難所へ向かう道路がすでに冠水している、または冠水の恐れがある場合は「子どもを抱っこして歩いて避難」を基本としましょう。抱っこひもやおんぶひもを使い、両手を空けることが大切です。なお、道路に溢れた水の中には割れたガラスやがれき、ねじやくぎなどのごみが交ざったりして、踏んでけがをする危険も。その可能性が高そうな場合は避難所へ無理をして向かうのではなく、上階へ逃げる「垂直避難」も検討しましょう。

2000年9月の東海豪雨を経験したナテック社員が教えてくれました

最後は“自助”の心構えが大切 豪雨被害から得た教訓

私の自宅は川沿いにありました。豪雨による避難勧告が出て、早めに体育館へ避難したのですが避難後に上流の堤防が決壊。溢れた水が押し寄せていました。当時近くに住んでいた姉から「水が来ていて、避難所まで行けない」との連絡で、迎えに行った時には膝上まで冠水。身ごもっていた彼女を汚水に浸すわけにはいかず、おんぶしながら歩くものの水かさが増して動けない状況に。ボートに助けられなんとか戻った体育館は、すでに1階の天井くらいまで浸水していました。体感にして10分ほどの出来事です。とても恐ろしかったのを覚えています。

避難する人は増え、さらに上階に逃げようとする人もいました。水で濡れた衣類からはひどい臭いがしましたが、断水のために体を洗うことができず、とても不快でした。

水が引いて家に帰ると、中は泥まみれでとても臭い悪臭。どうせ汚れるからとサンダルで掃除をしていたら、見えにくいきを踏んでしまい傷口が化膿。治るのに時間がかかりました。当時は災害への備えなど全くしておらず、その大切さを痛感しました。

私のケースのように、避難所が常に安全とは限りません。例えば車に防災用品を積んでおくと、避難所が使えなくても冠水する前に車で逃げることであれば、そのまま車中泊避難ができるかもしれません。また、親戚や友人同士で話し合っ、自宅が浸水した場合お互いの家に泊まれるようにするなど「避難の選択肢を複数持つ」ことが、有事の際には役立つと思います。前例のない災害では自治体も対応が難しく、最後は“自助”がものをいいます。災害に遭う前に、備えを進めておきましょう。



ナテック 製造部 牧

東海豪雨の被害の様子



新川洗堰



西枇杷島町



新川左岸
破堤直後

出典：国土交通省「東海豪雨15年 災害の記憶を未来へ」フォトギャラリー

水害から身を守る お役立ちグッズ

冠水した道路の水には汚水が混ざることもあり、臭いだけでなく感染症のリスクが高まります。せめて最低限の清潔を保てるよう、体拭きシートなどを備えておきましょう。踏み抜き防止インソールを用意しておけば冠水した道路を歩いて避難する際にけがの予防ができます。また水が引いた後の片付け作業を安全に進める上では、耐切創性手袋が効果を発揮します。



ナテックは 水害対応の防災セット を販売中！

読者の皆さんも、いつ起きるか分からない
水害への備えを進めましょう。

下記のグッズが入っています！

清潔に！



体拭きシート

けが予防に！



踏み抜き防止
インソール



耐切創性手袋
※色が異なる場合があります。

EC サイトにて
バックナンバー公開中！

「一人でも多くの人に“備える”大切さを伝えたい」。ナテックがkitに込めた思いを伝える創刊号から、全号を配信。右の二次元コードからアクセスしてご覧ください。



お問い合わせはkit編集部まで！

住所 〒490-1205 愛知県あま市花正寺浦55番地

TEL 052-449-6222

MAIL natec-emergency@natec01.co.jp

kit No.05

発行者 株式会社ナテック

▲ECサイト